

エコタウン事業への取り組みの背景

大牟田市は、福岡県の最南部、熊本県と接する九州のほぼ中心に位置し、人口約13万人を擁する、海苔の養殖などが盛んな有明海と、三池山などの山々に囲まれた自然豊かな環境に恵まれたまちです。また、大牟田を代表する夏まつり「大蛇山」は、300年以上の歴史をもち、毎年40万人以上の人出で賑わいます。



石炭産業に代わる基幹産業の創出

大牟田市を支えてきた **石炭産業**（石炭採掘及びその関連産業）は、1873年（明治6年）に官営炭鉱が操業を開始して以来、100有余年に渡り本市の経済基盤を担ってきました。しかし、昭和30年代以降の石炭から石油へのエネルギー革命を契機とした産業構造の変化により、地域経済は長期の低迷を余儀なくされ、平成9年3月に三井三池炭鉱が閉山を迎えました。



地域経済の疲弊が懸念されるなか、大牟田市においては、これら石炭産業に代わる新たな **基幹産業の創出** が求められていました。

広域化・深刻化する環境問題への対応

地球温暖化、オゾン層の破壊、ダイオキシン問題、最終処分場の逼迫や地球資源の枯渇などの **環境問題** は、近年、国内外を問わず一層深刻化しています。このため、国は、大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会経済システムを見直し、環境への負荷の少ない、持続的な発展が可能な **資源循環型社会** の構築を図るため、ダイオキシン類の排出規制や、循環型社会形成推進基本法の制定など、法制面での整備が進められてきました。



石炭のまちから環境のまちへ

これらのことを背景に、大牟田市は、ポスト石炭産業としての **地域経済の振興** と、RDF発電事業を中核とした最先端のダイオキシン類対策などの **広域的な環境保全** を図るため、市内企業の公害防止・リサイクル関連技術の活用及び臨海部低未利用地の活用、さらには、本市が九州の地理的中心地である利便性を活かし、環境・リサイクル産業を創出・育成する「**大牟田エコタウン事業**」を進めています。



● 大牟田エコタウンプラン

本市は、「大牟田市第三次総合計画」の中で、環境・リサイクル産業などの新しい産業の導入を図ることとし、平成8年度「大牟田市中核的拠点整備基本計画」、平成9年度「大牟田市中核的拠点整備実施計画」を策定しました。そして、このような計画を踏まえ、ゼロエミッション構想を推進する「大牟田エコタウンプラン」を策定し、平成10年7月、(旧)厚生省と(旧)通商産業省の共管事業であるエコタウン事業に全国で5番目となる承認を受けました。



エコタウンプラン承認書